



まるごとてんぱく 探訪シリーズ



地域に笑顔があふれるまちづくりを目指し、各学区における地域のつながりや地域独自の魅力をお届けします。

天白区を5つのエリアに分けて、該当エリアの区政協力委員長と区長の懇談の様子をお伝えします。

第4回目は、天白・山根・しまだ・高坂の4学区の皆さまです。

学区の見どころは何ですか？

(天白) 天白学区は見どころが多く、島田神社や地蔵寺がまずあげられます。また、区役所のほか消防出張所、土木事務所、福祉会館、児童館、休日診療所、図書館、生涯学習センターなど施設も充実しています。公園も大小合わせて10個くらいありまして、大変恵まれた学区だと思っています。

(山根) 山根学区はもともと島田のはずれにあった10数戸の集落が始まりです。その後、山を削ったり、池や川を埋めたりして住宅地を作ってきたということです。昭和30年代ごろから住宅地ができて、一つ山荘や菅田地区のマンションができて学区が形成されたのが昭和50年です。学区には緑が多く、“世界の相生山”と市長がおっしゃった相生山緑地があります。春先に北の方を見ると御嶽山が見えることもあります。桜やつつじなどを楽しみながらの散策には持ってこいの場所となっています。

(しまだ) しまだ学区は昔からある大根町・御前場町と、高島などの新しい町で構成されています。それぞれのエリアに公園が一つずつ配置されています。(国道)302号線が学区の真ん中を通っており、交通の利便性も悪くないと思っています。今年の4月にしまだ小学校と高坂小学校が合併して「たかしま小学校」ができました。旧しまだ小学校を新校舎に建て替え中で、3年後には自慢できる小学校になると思っています。また、たかしま小学校の校章デザインですが、しまだ学区連絡協議会が考えた斬新なアイデアが採用されて、これが使われていくのが楽しみなところです。

(高坂) 高坂学区の見どころは、人口の割には広い公園と、高坂荘の5階に上がると見える名古屋

駅前の高層ビル群がきれいなところです。学区のホームページを見ていただくと、昼夜が切り替わるようになっていて楽しんでいただけたと思います。高坂は、昔、尾張藩の武士が訓練をする狩場としての山林があったとか名古屋市の避暑地だったとか、いろいろと歴史があるところです。現在は、名古屋市でも屈指の高齢化が進んでいる地域になっておりますが、オンライン会議や電子回覧板を導入するなどIT化にもチャレンジしています。

(区長) 以前、地蔵寺があった現天白小学校のあたりに天白支所(旧天白村役場)の庁舎があったと聞きました。池場3丁目あたりが天白区の人口重心とされ、昔から天白区の真ん中ととらえられていたようです。そういうことから、天白学区には各種施設が多く集まっていると思われます。また、かつての松和花壇(現在の土原3丁目、4丁目)一帯は国の山林都市構想で一気に切り開かれて、高級別荘地や住宅地ができたところですよ。自然豊かな場所が、だんだん人の住む里に変わってきたところに歴史を感じます。

学区運営にかける思い

(天白) 天白学区は児童の数が多く、「20歳のつどい」の際には毎年130人前後の若者が集まります。「20歳のつどい」の時に「どうぞ皆さん、天白学区に残って学区のために協力してください」と言うのですが、なかなか思うようにはいきませんね。高齢でも現役で働いている方が増えており、学区運営に協力してもらえないのが実情です。

(区長) 70歳、80歳になっても活躍しておられるというのは現役世代から見たらとても励みに

なるのではないのでしょうか。天白区は区政協力委員と保健環境委員を兼務している方が多い、稀有な区です。定年年齢がそれぞれ異なることが問題となっていて、それを高い方に統一することができないかと言う声もあります。これを前向きなことととらえていきたいですね。

(山根) 昭和50年に学区ができた当初は、30代40代の人たちが中心となって盛り上がっていました。学校行事を中心にスポーツ大会などを行っていたのですが、年月を経るにつれて、そういう運動的なことができなくなりました。一方で、高齢者は増えていまして、高齢者や福祉対象者が参加できるおまつりということで、昨年のふれあい祭りは、抽選会をやるということになりました。協賛金を集めて、開催したところ、お祭りの参加者が倍増しました。町内会に入っているかいないかは関係なく参加してもらって、とにかく大勢の人が集まりました。こういう行事を楽しんだ人が、町内会の意義を見直す機会になるといいと思います。

(しまだ) 自分が学区に課題として考えることは3つあります。まず一つ目は、福祉の問題。ボランティアを受ける人が増えて、ボランティアの提供側の負担が増えています。今、ボランティアに携わっている方々が高齢化して、高齢者が高齢者を支えている実態を見ると、ここが課題だと思います。二つ目は防災意識の低さの改善です。ここは消防署にも協力していただいて向上していく必要があると考えています。今は学区の防災訓練を通して自助共助に力を入れていきたいと思っています。三つ目は青少年健全育成に関してです。若い世代が抱える問題に対して学区として何かできることはないか考える必要があります。昔から住んでいる方々が町を支えてくださっていますが、そこに新しく町に来た若い世代の興味やエネルギーをどう注ぎ込んでいくかが課題だと考えています。自分が(委員長を)引き継いだ時点でなくなっているものも多く、大変だとは思いますが、それを復活することにも注力したいと思っています。

(区長) 防災意識の改善という点では、しまだ学区は昨年「ASOBOSAI」という新しい感覚の防災イベントをやり、大変な賑わいでした。こういうイベントを通して、子どもたちが防災に対して興味を持つことは有意義なことですね。こうしたことから、子どもを対象とした青少

年健全育成について考えることは特に大切だと思います。「ASOBOSAI」のように、積極的に興味をもって取り組める具体的な仕掛けを何か考えていく必要がありますね。

(高坂) 高坂学区は平成20年から名古屋市のスミイルパートナー事業(シルバーパワー事業)のモデル学区として参加しています。今年度は17事業展開しており、その一つのサロンは10周年を迎えました。ただ、今困っているのが、やっている側もみな等しく高齢化し、うまく後に繋げないことです。若い人に積極的に参加していただきたいと思いますが、圧倒的に多いお年寄りの中に若い子がポツンと入ってきても続かないかもしれませんね。

(区長) 高齢化は確かに進んでいますが、子育て環境としては決して悪くないのではないのでしょうか。実際、高坂学区ではIT化を進めていらっしゃるとのことなので、ホームページなどでこういった情報を発信して、年齢を問わず働きかけていけば、まだまだ潜在能力はあるのではないのでしょうか。



この次の50年に向けて地域の子どもたちに伝えたいこと

(天白) 10年位前までは、学区で餅つきとか運動会とか盛んにやっていましたが、最近はやるものがどんどん増えてきて、なかなか手が回らない状況です。それでも、歴代の委員長方が頑張ってきてきたことは残していかないとはいけません。最近、区画整理が行われた地区があり、新しい世帯が入ってきていますので、町内会に加入していただけるよう案内して回っています。関心を持っていただけるように投げかけていくことが大切だと考えています。

(山根) 山根には相生山緑地がありますが、ここを

さらに充実させて、みんながますます楽しめる緑地になっていったらと思います。この緑地の周辺は道路事情が込み入っていて、子どもたちの通学時に危ない所があります。そういったところも整備して、子どもたちの安全を守っていききたいですね。そうやって、残したり整備したりして、今まで先人たちが繋いできたリレーのバトンを引き継ぎ、次の世代の走者へとうまく渡していければと思っています。

(区長) 天白区では天白プロムナードと称して、4つのエリアで散歩コースを設定し、ご紹介していますが、相生山緑地もその一つです。また、「天白・もりのフォーラム」も活動が盛んですので、これからもそういうところで地域の方々が自然に親しんでいただけるといいですね。このことは次の50年に引き継いでいきたい大切な財産だと思っています。

(しまだ) 次の50年のために、まずは自治会をアピールしていくことが大切だと思います。登校時に毎日見守ってくれる人、防犯灯の面倒を見てくれる人、おまつりの世話をしてくれる人、こうしたことは、知らないうちに用意されているものではなく、やってくれている人がいて、それは町の自治会の人であるということ子どもものうちから意識づけしていきたいと思います。

(高坂) 小学校の跡地を利用して、お年寄りが元気で過ごせると同時に子どもも興味を持てるような施設があればいいと思っています。いろいろな世代の方のご意見を聞いて、まとめていきたいですね。

(区長) 今日のお話を伺って、今の安心・安全な暮らしが、地域の色々な方たちの長年にわたる努力の賜物であるということ、若いうちから分かってもらえることが大切なことだと思いました。おっしゃるとおり地域の行事は1回なくなってしまうとなかなか復活することは困難だと思います。そんな中で今あるものを次世代に繋げていくためには、どうしても相当な地域の頑張りがが必要です。そして、この頑張りの原動力は、その支えに対する「感謝」なのではないでしょうか。みんなが地域に関心を持ち、支え、感謝する。こういうことを子どものうちからきっちり伝えていくようにすることで、まちの大切な「財産」が次の世代にしっかりとつながっていくのではないかと強く感じました。

